



【カメラを構えた私に振りむく生徒もいる。先生、どうもすみません】

宿泊ホテルのすぐ傍の仏教寺院。

この境内に鬱蒼（うっそう）と繁るガジュマルの樹。

時は8時、朝日から太陽に変わりつつある光はまだ弱く、遠く寺院の赤い屋根と白壁を照らす。

樹に垂れさがる無数の糸は、先生と生徒を優しく包み込む。

今日は一体、何の催しなのだろうか。